

このところ、各種メディアで取り上げられている「男性保育士による女児の着替え、おむつ替えは是非か？」という話題。そもそもの発端は、千葉市の「市立保育所男性保育士活躍推進プラン」作成の背景には、「職場に男性保育士の更衣室が無かったり、女児の保護者から男性保育者に子どもの着替えをさせるなどといった要望があるなどの課題があったため」などと熊谷市長がツイッターで発信したことのようです。このようなことは、男性保育者のいる園ではちらほら聞くことだったので、そう簡単に決着のつく問題ではないと思いますが、より多くの方に考えて頂く良い機会になればと思います。

私自身の経験を少し・・・。

大学卒業後、5年間東京の保育園で保育士として勤務していました。当時の保育園としては珍しく、園長、事務、保育士あわせて7人も男性がいる園でした。通常、女性の職場に男性が一人だと、「男なんだから・・・」と力仕事、電気、機械関係、すべて任せられ、勝手にダイナミックな保育を期待されたりするものです。さらに、大食漢で気が利かない、不潔でガサツ、もしくは、女々しいナヨっとした男、そんなイメージも先行しがちです。幸いなことに私の場合は、数いる男性のうちの1人でしたので、「男にも色々な人がいる」ということが当たり前のようにわかってもらえている職場でした。

そんな職場であったにもかかわらず、偏見だと感じた出来事もいくつかあります。1歳児を担当していたときのこと。担任は女性保育士2人と私、午後はパートの方（女性）も保育に入っていました。ある日のこと、先輩保育士に「オムツを洗ったらゴム手袋もしっかり洗っておいてください」と私だけが注意を受けたことがありました。私は自分で言うのもなんですが、几帳面な性格で、潔癖とまではいかないまでも、隅々まで丁寧に洗いきれいにしておくタイプなので（ましてや仕事なので）、ゴム手袋も毎回丁寧に洗っていました。「毎回しっかり洗ってますが」と言うと、「でも、ウンチが付いてましたから！」と言われました。内心、（有り得ない！絶対俺じゃない！）と思いまいしたが、新人でしたので、「わかりました、気を付けます。」と言うしかありませんでした。明らかに私が新人で、しかも男だからだろうなと感じました。

また、ある時は、調理室に食器洗いの手伝いに入った時のこと、丁寧に洗おうと、お箸を1.2本ずつ洗っていると、調理師さんから「家であんまり手伝わないでしょ？もっと手際よく洗わなきゃ。お箸はこうやって何本かまとめて洗うんだよと7~8本ずつぐらいまとめて洗って見せてくれました。別の日にまた手伝いに入った時、先日教えられた通りに洗っていると、それを見ていた別の調理師さんから「まったく、これだから男の人は！1本ずつ丁寧に洗わなきゃだめでしょう。」と言われる始末・・・。さらに、私がオムツを洗っている姿を見て、お迎えに来た園児のお母さんから、「4年生の大学を出て、こうやってオムツを洗ってる姿、実家のご両親はどのように思っているのかしらねえ？」といったニュアンスのことを言われたこともありました。もちろん「うちの親はむしろ喜んでますよ！」と答えましたが・・・。

偏見が少ないはずの職場でさえ、そんなことがあったのですから、男性が1人しかいないような職場では、さぞかし大変だろうと思います。

しかし、私はその職場で2年目にして、その園の40年に渡る歴史の中で、男性として初めて0歳児を担当させてもらうことができました。もちろん、複数担任のうちの1人ではありましたが、これまで先輩男性保育士たちが希望しても、させてもらえなかったという0歳児クラス。「初瀬さんなら…」と園長先生や主任の先生方が推してくださったとのこと。男性の私でも0歳児保育の担任が務まったという実績(?)により、次の年からは交代で0歳児の担任に男性も入るようになりました。

0歳児クラスは、保護者の方々にとっても初めての保育園という家庭がほとんどです。中にはお父さんが送り迎えをされる場所も何軒かありました。保護者の方々や飲みに行ったりすることも度々ありましたので、とても仲良くさせていただいていました。そんななかで、着替えやオムツ交換について「男にはしてもらいたくない」などという話は一切出て来ませんでした。むしろ、「いやあ、はっちゃん（当時、私はこう呼ばれていました）がいてくれてよかったよ！女の先生ばかりじゃ、俺も保育室入りづらくってさあ」というお父さんや「保育ってけっこう力仕事だし、散歩の時とかも男性がいると安心よね」などと、0歳児クラスであっても男性がいた方が良いと言ってくれていました。それは「男」「女」の性差だけではなく、私を「人」として信頼してしてくれたからだろうと思います。

わが園にも、現在、男性保育士が2人います。子どもたちには幼いときから老若男女、様々な関わりがあった方が良く感じ、常に乳児クラスにも男性保育者を置くようにしています。入園の際には、少し驚かれる方もいらっしゃいますが、すぐに当たり前のことと受け入れて下さっているように感じています。

乳幼児期における「人とのかかわり」は非常に重要です。子どもと保育者、保育者と保護者、それぞれの信頼関係なくして保育は出来ません。保育士はきちんと資格をもった専門職です。見ず知らずの男性にオムツ交換や着替えをさせるのは訳が違います。保育とは養護と教育が一体となったものであり、養護のかかわりの大切なもののなかに着脱、排泄等も含まれます。こうしたかかわりから信頼関係が形成されていくとも言えます。

「人として、この人は信頼できない」というのならわかりますが、「男」「女」という性差だけを根拠に、こうしたかかわりが拒否されることの無いようにと願っています。